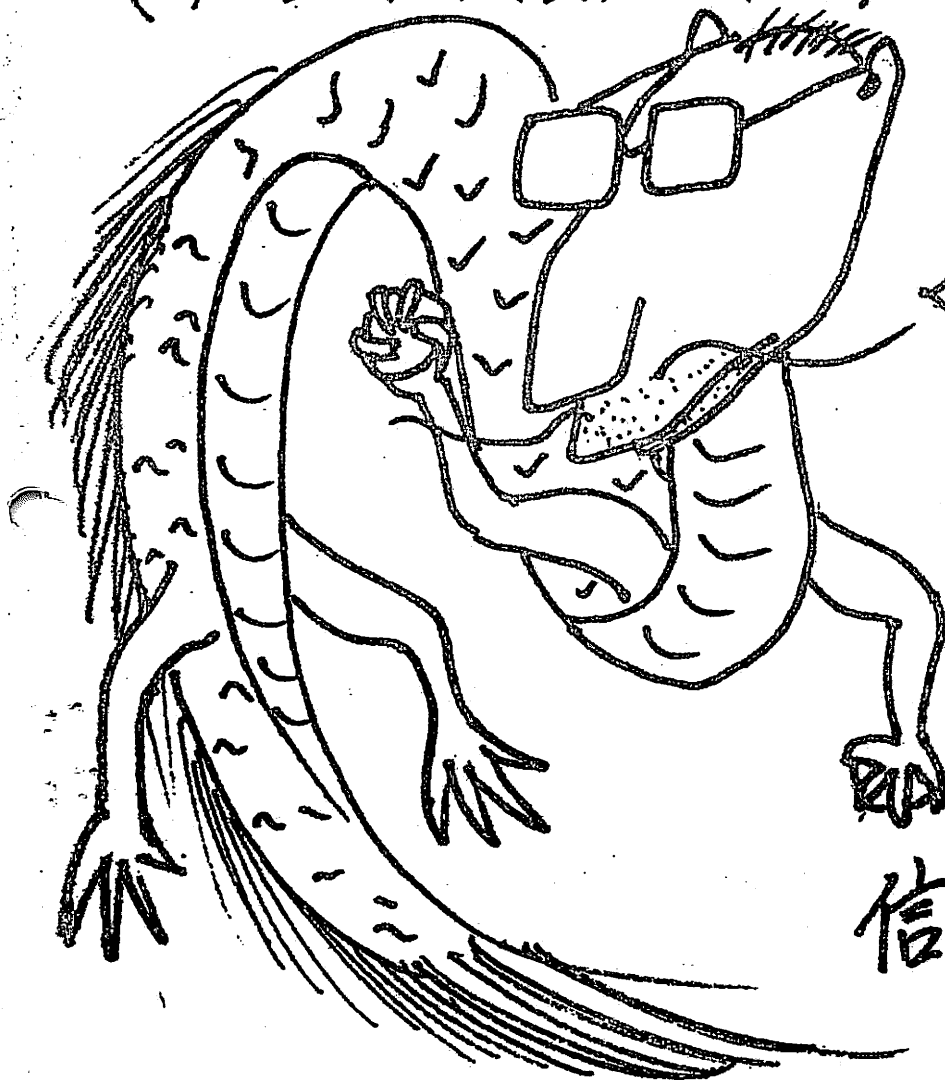


# 1987

## 冬山合宿

### 山行報告書

(70℃冬+個人山行)



今年は昇竜した  
なつてみました。

信州大学  
山岳会

(1) 総括	1.
(2) 行動表	2.
(3) 高度表	3
(4) 行動記録	5
(5) 係の反省	16
(6) 個人の反省	21
(7) 作文集	26

## (1) 総括

冬山谷宿を終えて

全員無事下山でき、本当に良かったと思う。冬山谷宿で計画通りに全行程を終えたのは5年ぶりの事で、その点でも非常に嬉しい。

しかし、皆もわかっているように、こんなにあっさり成功したのは天候が、非常に良かった事を抜きにしては考えられない。特に、1年生は誤解しないで欲しい。冬山は、こんなものじゃないという事をきもに命じておかないと、次回にはツケが回ってくるだろう。また、成功したからと言って手放しに喜んでいられるわけではない。合宿をふりかえてみると、多くの反省点が見つかる。例えば、前半は、上級生の負担がかなり多くなった訳だが、その事に不満をもらす態度も若干見られた。そして、皆が疲れている時にこそ進んで仕事をするというような積極性も乏しかつた。状況が良い時は、誰でもが動けるし、それなりの事はできる。しかし、悪条件の中でどれだけ冷静に判断し、行動できるかこそが本当の実力だと思う。そういう意味で、まだまだ自分に甘い所が多いようだ。自分自身に厳しくなれば、もっと素晴らしい山行が出来るようになるはずだ。

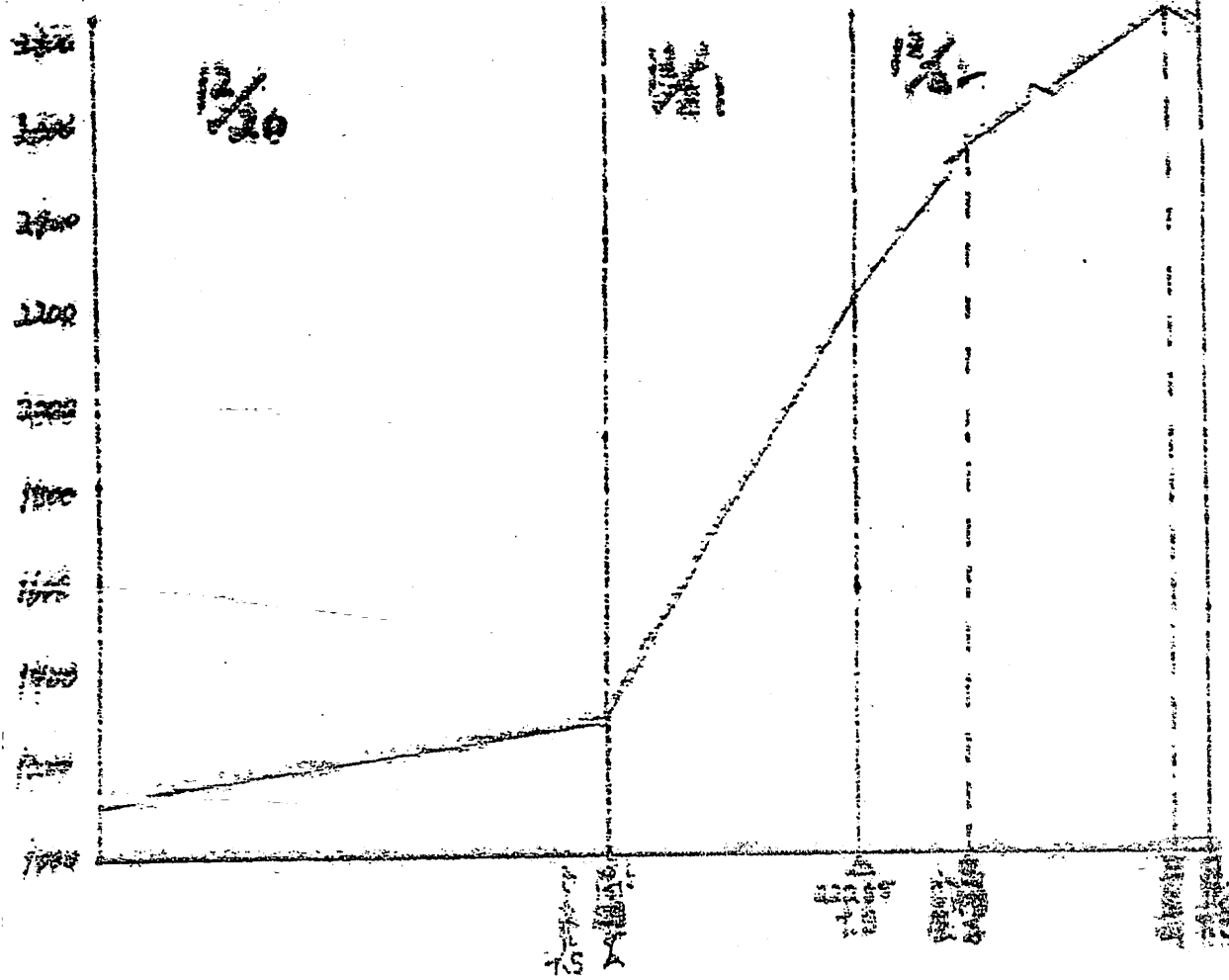
何はともあれ、僕が大学に入って以来、初めての冬合宿の成功なので本当に嬉しい。そして、とても楽しい合宿だったと思う。

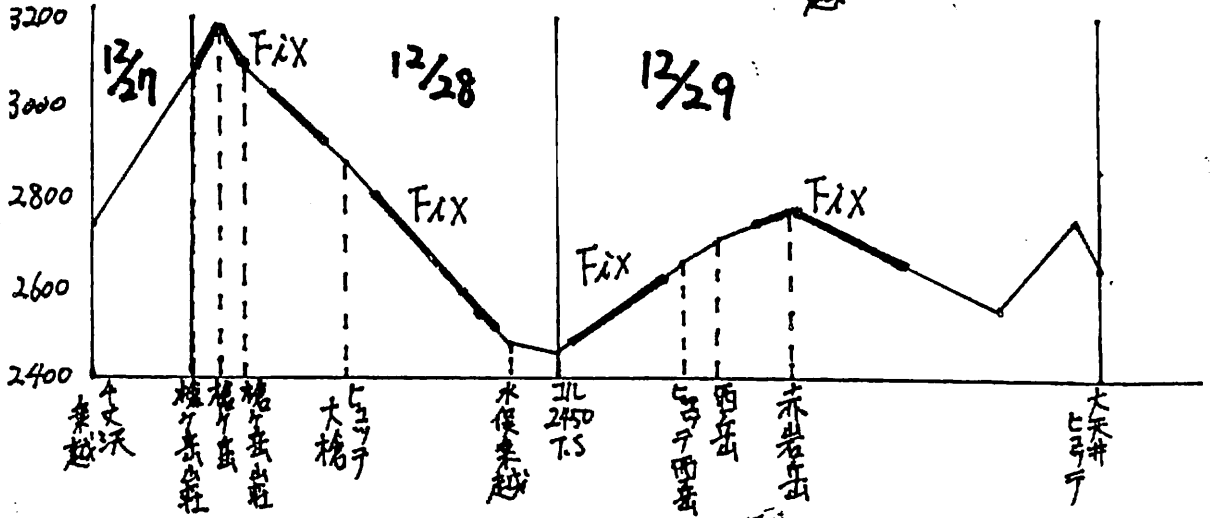
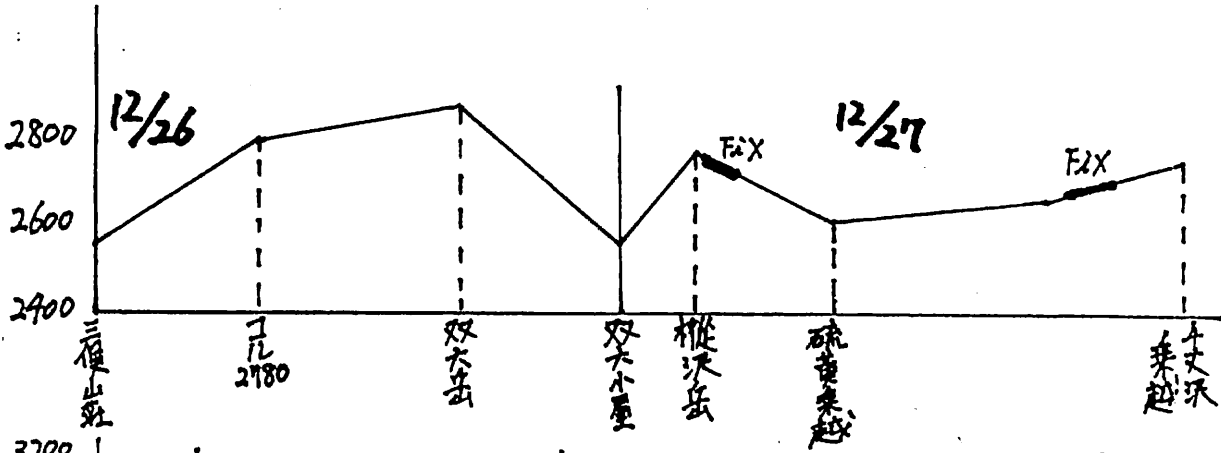
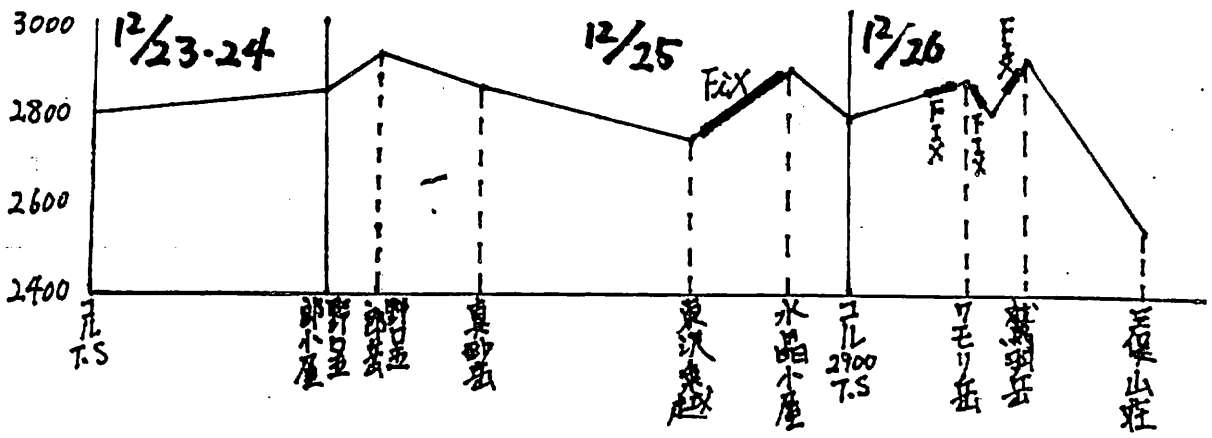
# (2) 行動表

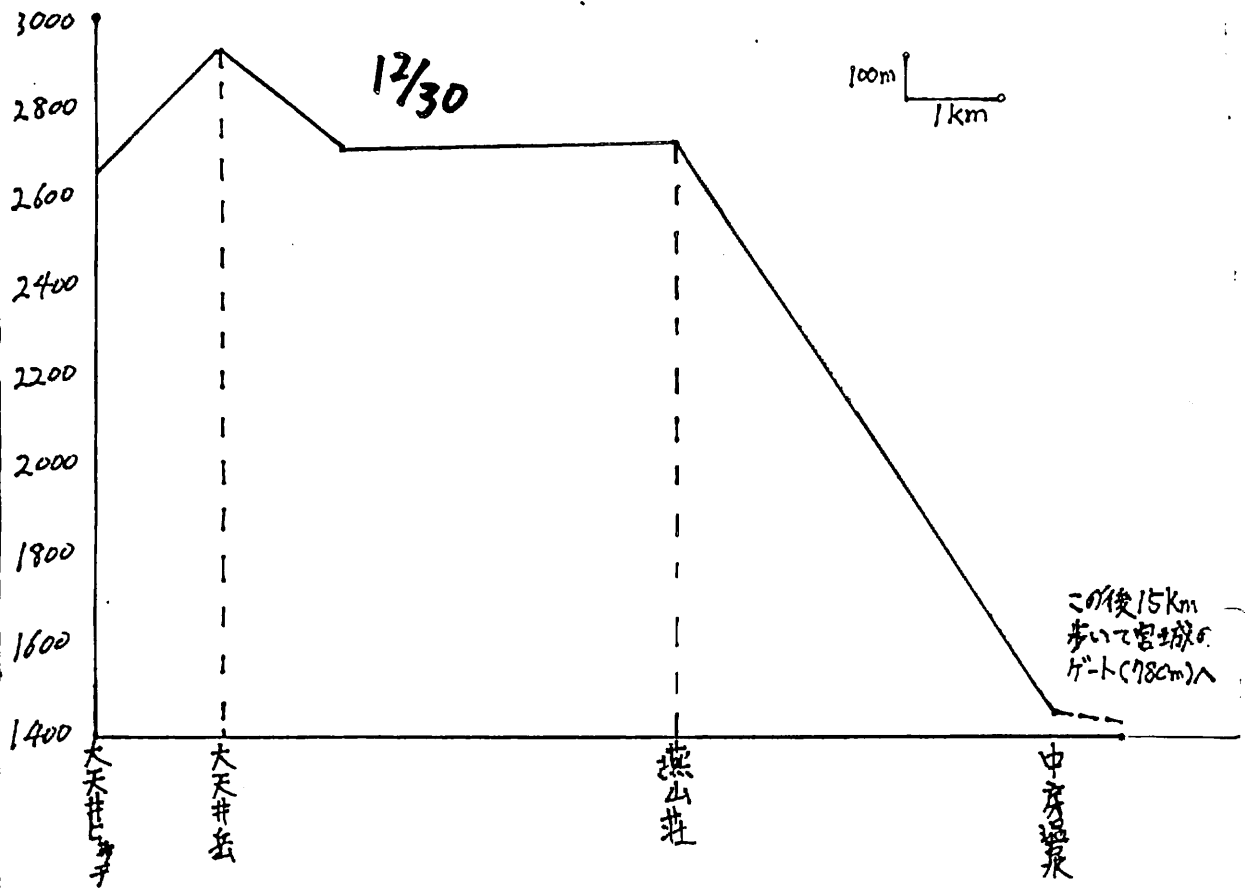
	松本	犬伏	七倉	高橋	一ノ宮	二ノ宮	三ノ宮	四ノ宮	五ノ宮	六ノ宮	七ノ宮	八ノ宮	九ノ宮	十ノ宮	十一ノ宮	十二ノ宮	十三ノ宮	十四ノ宮	十五ノ宮
	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO
12/20		先 後																	
21			先 後																
22																			
23																			
	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄	立寄
	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO	DEPO
24																			
25																			
26																			
27																			

	龍 宮	中 房	燕 山 莊	太 入 井 庄	太 入 井 庄	赤 岩 岳	西 岳 小 屋	水 溪 溝	龍 宮 山 莊	龍 宮 山 莊
龍										
中										
燕										
太										
太										
赤										
西										
水										
龍										

(3) 高度表







#### (4). 行動記録

12/20.

- 7:00 ⊗ 七倉
- 9:00 ⊗ 高瀬ダム(T.S)
- 9:30 ⊗ DEPO出発
- 11:30 ⊗ 権太落し(コンタクトシ)
- 1:30 ⊗ DEPO地着(約1,900.m)
- 2:00 ⊗ 同地発
- 3:50 ⊗ 高瀬ダム(T.S)

※荷物が少ない楽勝の入山日だったのは、去年の入山日を知る者のみぢや。(Bokun)

12月20日 七倉山荘 ～ フナ立の登り口

メンバー 後続パーティー  
安田 飛田 内田 小林

- ⊗ 8:30 七倉山荘
- ⊗ 9:15 高瀬ダム下
- ⊗ 10:00 高瀬ダム横のトンネル出口 TS  
～ テント設営～
- ⊗ 12:20 ホーラー開始
- ⊗ 13:50 テポ
- ⊗ 15:50 TS

シナノ大町エキで電車にタバコを残置してしまった  
ために白馬エキまでタクシーで取りに行きました。  
皆さんどうも申し分ありませんでした。

記 小林

12/21

先発隊

〔 安田 中村(の) 豊田 内田 小田原 松下 牧野

6:00	出発	雪	
7:50	1,900地点		雪
11:55	T.S. (2,200地点)		"
12:50	1,900地点にバックデポ出発		"
14:30	T.S. (バックデポ終了)		"

雪が降っていたが「風が」弱くそのため寒くなかった。  
ラッセルはしんどかった。(松下)

12/21 後登隊

L: 三野, 瀬川, 飛田, 下平, 浦山, 小久保, 小林, 服部

- 6:40 T.S 発
- 8:40 1700m テホ地
- 9:50 1900m 地点 個装テホ 1700m テホ回収入
- 10:20 1700m, テホ回収
- 13:20 2206m 地点 T.S 着

雪少し  
↓

・ 1900m で 設置具と 個装と テホが かなり 強烈な 重さであった。

(浦山)

### DEPO 隊

メンバー 三野, 中村(幸), 飛田, 瀬川

- 2:00 2208 T.S 発 < もり
- 2:50 2295 付近 テホ地 に テホ する。  
途中 石や ブラシが あり、 歩きづらい。
- 3:15 T.S 着

12/22

A party L: 三野, 中村(工) 飛田, 下平, 小田原, 松下, 浦山

- 6:15 ○ T.S 発
- 9:25 ○ 烏帽子小屋 ← ヒザ 程度の ラッセル  
22,90 の コル 往復
- 11:00 ○ 烏帽子小屋 着
- 11:45 ○ 同小屋 発 ← DEPO
- 12:35 ○ ミツ岳 の 寺前
- 2:00 ○ ミツ岳 の コル (Bokun)



12月22日 日 18-18-1  
 上 豊田 瀬川 中村(男) 内田  
 飛田 小久保 小林

7:40	○	下S 麓
8:30	○○	2380m 下S 麓
8:55	○○○	麓
9:25	○○○○	2200m 下S 麓
9:45	○○○○○	麓
10:35	○○○○○	2380m 下S 麓
11:00	○○○○○	麓
11:30	○○○○○	鳥帽子小屋
14:40	○	下S 麓

(小久保)

12月23日 日 18-18-2  
 上 豊田 瀬川 中村(男) 飛田 豊田 内田  
 7:40 下S 麓  
 8:30 鳥帽子小屋 下S 麓  
 8:50 麓  
 10:00 下S 麓 下S 麓  
 11:15 下S 麓 全員行動  
 12:40 飛田 中村(男) 瀬川 飛田 豊田  
 13:00 鳥帽子小屋  
 14:25 鳥帽子小屋 下S 麓  
 15:45 鳥帽子小屋

鳥帽子小屋撤収したから 天気が回復してきた。  
 鳥帽子小屋は寒く 積れてないせいかな 整理・整頓が  
 できている感じがした。(三浦太郎)

12月24日

フックス隊

Member 山三郎、豊田、宇田

7:00 野口五郎小屋登。 ○ 強風

個機を手ホシ、アタック準備で出発

7:40 真砂岳北峰ホシ地 ○ 強風

前日の手ホシの甲からフックス具を持ち行く。

9:00 霧次東越 ○ 弱風

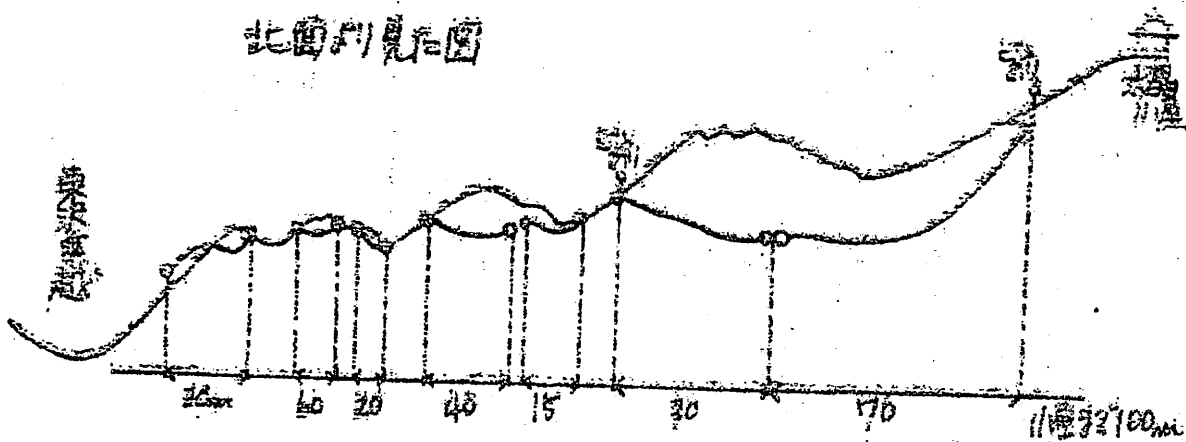
フックス

13:15 水晶小屋直下までフックス張り終結。 ○

その後下降

15:45 野口五郎小屋着。 ○ 強風

北山の見方



フックスギル、ナイフプレートバーンがもう少し厚かった。雪はまた、  
く、フックスがスノーバー、フックスがまた、使ったのにはうらやま。  
水晶小屋直下は風が雪が降り止んだが、雪が降り止んだと1P  
は必要です。(宇田)

Back Depo 隊 山瀬川、堀田、中村(三)、内田、下平

7:00 ○ 強風 T.S (野口五郎小屋)

8:10 ○ DEPO 地

9:15 ○ T.S (野口五郎小屋) (Sokun)

12/24 本隊 (Fix 隊を除く全員)

10:30 の 夙 ヲシ T.S (野口五郎小屋)

11:30 の 真砂岳下, コル (DEPO地)

1:00 の 東沢乗越 (DEPO地)

2:30 の T.S (野口五郎小屋)

※ T.S 周辺は冬期、風が強いようである。

東沢乗越のお地蔵さまに祈りを捧げて全員  
無事。 (Bokun)

12/25 A パーティ

L 中村貴士, 安田, 内田, 小田原, 浦山, 牧野

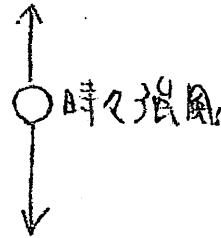
7:35 野口五郎小屋

9:40 東沢乗越 (折り返)

11:20 水晶小屋

12:05 " "

1:35 ワリモの予前の T.S.



村の檜がとってもきれい。  
(牧野)

B. 本隊

メンバー 三の 瀬川 安田 飛田 中村 豊田  
エナリ

小保 牧) 浦山 松下 服部 小田原  
小林

強風 ○ 7:15 野口五郎小屋

風なし ○ 8:40 東沢乗越

微風 ○ 11:05 水晶小屋

強風 ○ 13:05 ワリモの予前で引返す

強風 ○ 13:35 水晶小屋からの下りのくぼ地 T.S

はじめての Fix が出現した。水晶岳は美しく  
見えました。

記 山村

12/25 Fix回収隊

Bパートとして水晶小屋まで行き2階上に分れる。  
L 三野 中村(口) 豊田 瀬川 下平

10:50 ① 水晶小屋  
11:45 ① 東沢東越 バックテホ回収  
Fixを回収し倉庫から水晶小屋へ

13:00 ① 水晶小屋  
ダンバコを少し残して水晶小屋のテホも回収する

13:30 ① ワリモ岳前のワル  
本隊が引取のえにきて合境設置中。  
東沢東越まで体厚とんど夏道が出ている  
アゼン。とんどはクラストにしている  
もどくくる本隊を見たととき。初めは別のBパートかと思  
った。Fix回収はつかれた。 一下半一

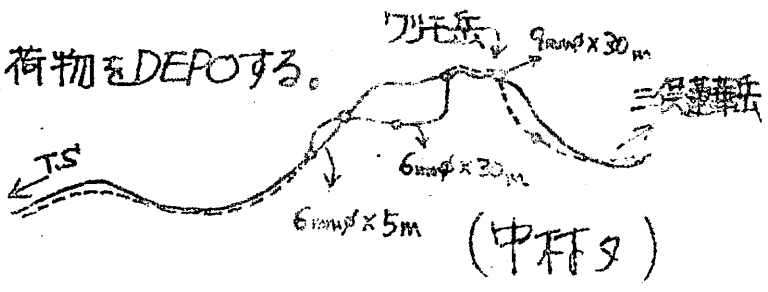
25日 バックテホ隊

L 三野 瀬川 小田原 小久保

13:55 ① T.S 着  
14:15 ① 水晶小屋  
14:35 ① T.S 着 (小久保)

Fix L 中村(口) 内田

1:45 ① 本隊と別れ荷物をDEPOする。  
2:45 ① ワリモ岳  
3:00 ① Fix終了  
3:30 ① T.S 着



\* G.W のようにあったか  
アゼンは、だんごになってしまう。

12/26 A party L 中村(中) 内田 下平

1人 タンバ21つぐらいいとFix具を持って出発。

7:00 ○ T.S

7:50 ○ ワリモ岳

ワリモの登り。頂上直下に 新たに15m Fix

9:15 ○ ワンバ岳

頂上直下へ20m Fix

10:35 ○ 三俣山荘

本隊と合流

三俣山荘手前までアイゼン。くるぶし程しかきくさもない。

三俣山荘手前100mのサルガッソーのトコをハイマツ帯で

皆1分30分以上も使い。50m手前でワコンをつける。

一下平

12月26日 本隊

L 三野 安田 豊田 中村(中) 飛田 瀬川  
小田原 浦山 牧野 松下 小久保 小林 服部

7:30 出発 快晴

8:45 ワリモのFix終了

10:50 三俣山荘

12:05 蓮華岳直下のトラバース

15:05 双六小屋

天気が最高に良くて槍ヶ岳もすぐ目の前  
に来てしまった。トラバースが少し怖かった  
が、明日は槍ヶ岳だ！と思いきわくわくしてしまっ  
た。

(松下)

12/27 A party L 三野. 飛田. 内田 (Fix隊)

6:30 ○ T.S(双六小屋)

2:00 ○ 槍ヶ岳山荘

4:00 ○ 槍ヶ岳ピストン

4:50 ○ 槍ヶ岳山荘

(Bokun)

12/27 日曜日

L: 安田, 瀬川, 中村 (7), (工), 豊田, 下平, 浦山, 小田原, 小久保, 小林, 服部, 牧野  
松下

7:00 双六小屋発  
11:30 硫黄乗越  
15:00 槍の肩 T.S.  
晴れ - 風弱し  
↓  
- 風が少し強くなる。

・西鎌尾根は長く、槍が見えているのに つかつか着かなくてしんどかった。

(三浦山)

12月27日

槍ヶ岳アタック隊

Member 瀬川, 安田

明日フワスに出るため今日のうちに槍のPeak1に行く)と出発

16:00 槍の肩発 ○

16:20 槍山頂

夕焼けがとて素晴らしい! 写真をとる。

16:50 槍の肩着。

夕日に赤く染まった山々に感動。私は神の存在を信じてました。  
(安田)

28日 fix 隊。 L: 瀬川, 安田, 内田

6:50 肩の小屋発 快晴

8:45 キョウ大槍 快晴

1:00 水保乗越 快晴

) fix 3P

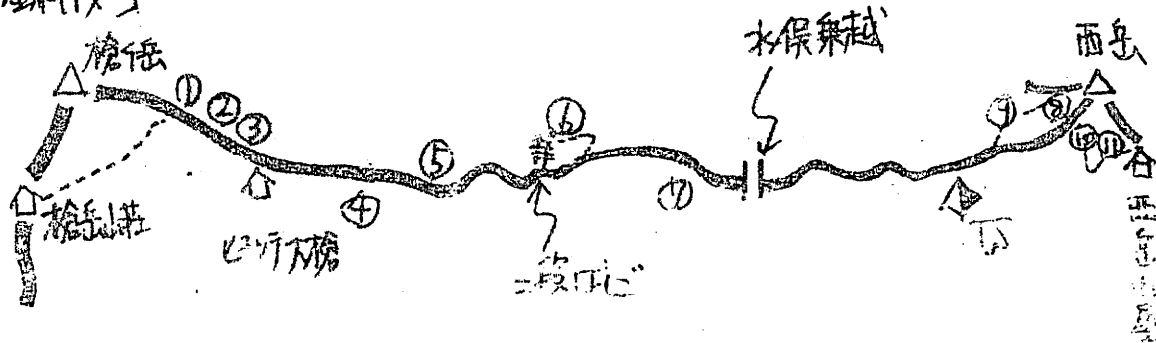
) fix long 2P  
short 2P

3:15 西岳の登り2" トウ入のfix 1P張る。  
無線2" T.S.の変更。引き返しを伝えしめる。  
復道に出たと32" ケホ2をデポし。引き返す。

4:30 T.S.着

(瀬川)

[東鎌Fix]



long: 30~40m → ⑤ ⑧ ⑪

⑨ ⑩ ⑪は  
翌日落ちた。

middle: 15~20m → ① ② ③ ⑥

short: 7~15m → ④ ⑦ ⑧ ⑩

12/28 本隊  
L. 三野, Fix隊を引く全員

6:45 槍の肩の小屋彩  
7:15 " 頂上  
8:15 " の肩 粥  
9:30 " 下天槍  
10:30 キュッ 下天槍  
13:00 ~ 13:30 三段バシ  
14:30 西岳の手前のT.S.

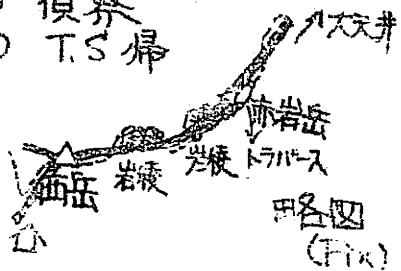
↑  
快晴  
↓

まさかあそこにテントが張れるとは思わなかった。  
(三野)

12/29

- Fix隊 L 中村(仁) 中村(弓) 下平
- 6:45 ① T.S 発
- 8:20 ① 西岳
- 10:30 ① 喜作新道
- 12:25 ① 大天井ヒュッテ (T.S)
- 1:50 ① 偵察
- 3:05 ① T.S 帰

※ Fixは、赤岩岳までの岩稜。  
 岩がもろく、ピンのまき具合の  
 経時的な変化を無視したり、  
 雑なFixをしてしまい、後発隊  
 に大変迷惑をかけた。



(中村)

12月29日 西岳下のTS ~ 大天井ヒュッテ

大バナー 本隊 L 三の 富田 豊田 頼川 飛田  
 内田 服部 小原 牧ノ小久保  
 山崎 山下 小林

- ① 7:20 西岳直下のコルT.S
- ① 8:30 西岳ヒュッテ
- ① 15:38 大天井ヒュッテ

フックスに今周が(かかり)以外と時間がかかってしまった。  
 本当に良く晴れたなごやかな一日だった。

記中村

12/30 L.三野.以下全員

- 7:15 ① 大天井ヒュッテ (T.S)
- 8:00 ① 大天荘 ~ 強烈な吹雪
- 9:30 ① 切通岩 風が強い
- 12:00 ① 燕山荘
- 2:00 ① 中房温泉
- 2:40 ①
- 5:15 ① 宮城

※ 氷くらいの天気だ  
 オレは好きだ!

(Bokun)



## (1) 係の反省

Essen

朝食

- ・朝の乾燥野菜は少ないかと思う
- ・梅ラーメンは又はりやすく、作り方を少し使い方を考えた
- ・昨年の反省にあったが、又かき呼の味のバリエーションを考えた

昼食

- ・クズカキは1個溜りぐらいいはもち、有効だと思う
- ・あやせんを使うとタンパコス個になりやすいので注意
- ・ココナツサアレは破れやすいので使えない

夕食

- ・夕カレさんに持ってきていただいた鳥肉もどきは絶品だった
- ・本だしをうすいほうまかたのでこれからも使いたい
- ・切ほし大根なども使ってみたかた
- ・食いつぶしの時に、米だけで作ると水がすい、ねぼねぼごはんになるので気をつけよう

レーション

- ・量質ともにおいたいよかたと思う
- ・にぼしを使うと袋がやぶれてしまうか、なんとかならないか

その他

- ・計画段階で一食分足りなかつたり、7月冬の残りを考えないなど初歩的なミスが多かた
- ・乾燥野菜は、いねいに作ってほしい
- ・ダン箱はEssen係が考えて開けるようにすればいいと思う
- ・予備食を大切にしましょう。

(下平)

装備

今回もやはりホエーブスの調子が悪かた。やはり、日頃の点検・整備に気をつけなくてはいけないだろう。それと、もっとみんな物を大切にしてほしい。特に冬合宿のような長期の山行では、少しのことが重大な事故につながる事も考えられる。例えば、カスホリを

アイゼンで穴をあけたり、食器を飛ばしたり……である。  
 あと、Fix具でも、軽いクレモト等を多く持つなど、装  
 備に工夫をすべきであったと思った。

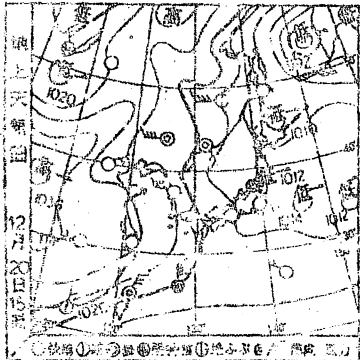
会計		
1人 20000 x 16	320000	
9000 x 2	18000	
カビ	34910	
アミ冬残	2669	
古道具	2000	
総収入	377579	
Fessen		180365
準備		59795
松本-大町		9300
大町-七倉		12900
宮城-松本		24720
小林-大代		10070
9000 (トカ)		31600
総支出		328730
残	48849	

→ 3000円返して 48000  
 残りの849円はどこの郵費に付。

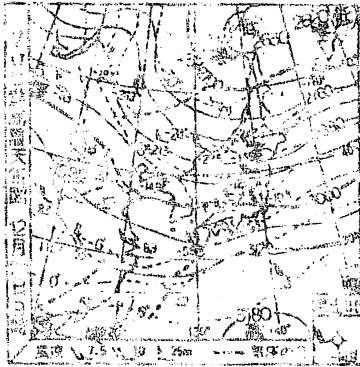
# 気象の推移

12月20日

入山日  
〜高瀬ダム  
曇りのち雪

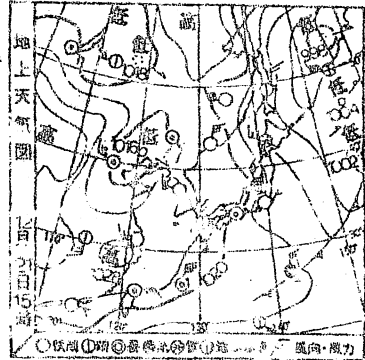


大陸の高気圧が南に下りて西日本に張り出し、東日本では西高東低の気圧配分が成った。その為山岳部には雪が降り、

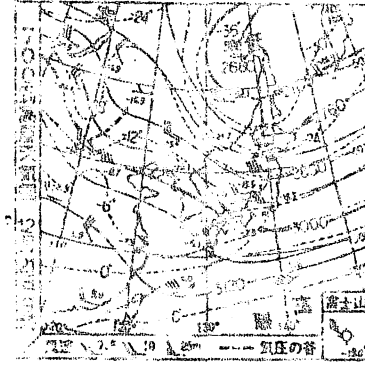


12月21日

・T.S  
〜  
2208m  
雪

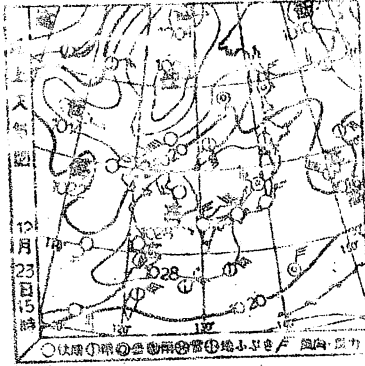


カハリン北部方面には低気圧がのび、低気圧の外を伴い寒気を侵入している。日本付近の気圧の急変は東海上に波打つたため山岳部ではまと風が吹いた。

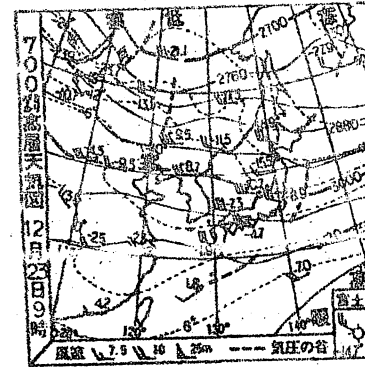


12月23日

三ヶ岳のコレ  
〜野口五郎  
風のち晴れ

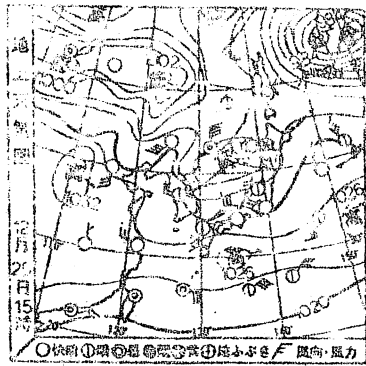


等高線や等温線の間隔も開いて穏やかな天気となる。地上天気図では移動性高気圧が本州を覆い、带状高気圧となり、明け方持続しやすくなる。

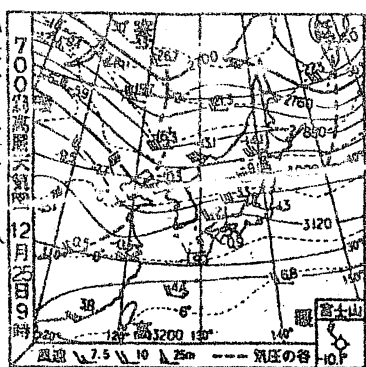


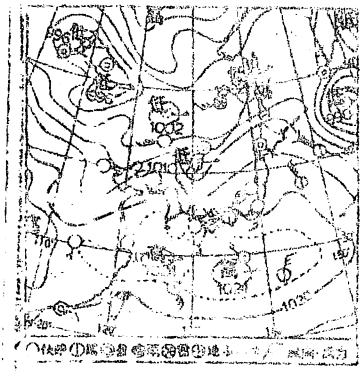
12月25日

野口五郎  
〜無のコレ  
晴天



短い周期で気圧谷が通っており、移動性高気圧に覆われており、等高線や等温線の間隔も開き、穏やかな天気となり、本州には寒気の南下はなく、気温は高い。





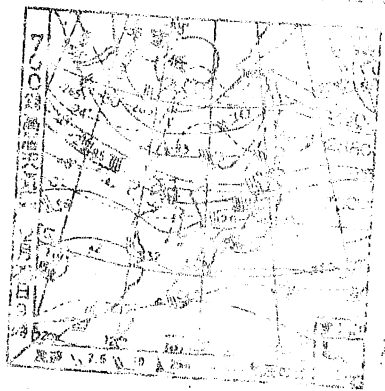
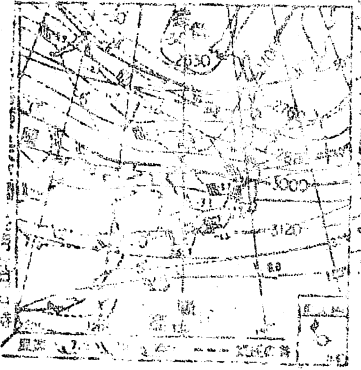
2月26日  
 伏見  
 ~ 難波  
 霧のち晴れ

等高線の間隔がせまくなり、気圧の谷と峰の差が大きい。天気は崩れ、大が寒気は日本に南下せし、晴天を深める。



2月28日  
 宇治  
 ~ 水尾  
 晴れ

アール川下流に低丘部があり、気圧は谷の後面には寒気を促してあり、地との気圧は前線を作らず、進んでいるが、日本への影響はあまりない。



気象系。  
 ・今年が、高層気象は大変とりやすくなり、係としては全員が作図できるようにセミを行うようにしたい。  
 ・1年庄は一応天気図(地上)はとれるようになってはいるが、まだまだ未熟である。それに加えて天気に関する知識が不足している点、を特に指摘したい。  
 ・天気図は、前日の10時以後日断材料となす場合もあるので、大切に。

## (6) 個人の反省

今年の冬合宿は完走することが第一目標であった。そして上級生のフィットが  
このことにこだわっていた。結果的には天候にめぐまれてこともあって達成  
できた。本当によかったと思う。しかし合宿が終了した今、様々な問題が指摘  
されている。生活技術、Essen、ルーフメンテナンス、etc...。合宿の成  
功とは何だろうか。完走するのはだろうか... 私はどうでもよい気がする。合宿の  
成功とは、次のような条件の厳しい山行に生かす経験を積むことだと思う。  
今回は天気がよく条件もラフな面が多かった。これは良かった。これは良かった。  
だからこそ、ルーフミスでも見のかさず合宿の終了した今、検討しあうことが  
大切ではないだろうか。もっと山に対して貪欲にならなくてはならない  
のではないだろうか。そんなことを考えて冬合宿だった。  
(安田)

全くの合宿とは違い、たいへんよい晴天が続くとともに冬山とは  
思えなかつた。合宿が成功してとてもよかった。ただつづられた  
ケーキは見てがっかりした。三ヶ岳から五郎小屋へ移るとき、一年生  
が動かない。分上級生がしかり動かなくてはならないと思いがちでも  
心のすみになせに動かさなければならぬのかと思つたことは事実  
であり、蒸まで行くにはやることもやらなければならぬと思つたのも  
事実である。そして痛烈に感じたことは自分の脚力が低下したよ  
うである。なるともなせな話である。春山ではこの合宿で石開け  
なかつた技術を研ぎ、一人前のリーダー部員になりたい。  
(浩太郎)

今回は天候に恵まれ、順調に行程がすすみ、結果的には、11日前  
で下りてくることができたが、117その冬山はこうそう早く117たか  
どうかはわからない。Fix通過や稜線でのテポや回収、エプ  
な状況でも確実に行動できた。もう一度自己の実力にしらみか  
てみる必要がある。個人的には、前半思うように動けず、  
情のなかつた。また、Fix工作での知識の不足はあまり50%普及  
の研究不足にほかならぬ。合宿に対する心がまえが甘かつた  
ように思う。そして、合宿全体を眺めると、円滑に合宿を  
すすめる配慮をすすべたのと反省している。

1年生、2年生は毎日行動して御苦労様でした。この合宿で  
満足せずに、どんどん積極的に春山に行ってください。

(飛田)

け、こんな冬山じゃねーや。これが私の合宿に対する感想がある。確かに全体を通してみればしんどい日もあった。だが年間の総括の冬山合宿がこれ程あまりと成功してしま、このは問題があると皆、上級生は思っているはずだ。今年おりの成功をもってよしとせず、もっと厳しい条件を想定して冬山を考えた。

個人的には、Fixの失敗が合宿をして不成功として感じさせた。やる以上は100%を……。(中村マ)

今回の合宿は、天気にめぐまれて完走できて非常に良かった。反面、体力的にも精神的にもシビアでなくて、楽すぎた。冬山の技術もあまり経験をつめず、3年部員として、もっとあらゆる場面を経験したかった。しかし、毎日前に進めたのは楽しかった。Fixでは本隊にタイムロスを与えてしまい、何の為のFix隊なのかという結果になってしまった。辛い事改はなかったが、もっと一つ一つの判断を大切にすべきである

(中村ユ)

Fixを張る際、もう少し気を配って自信を持って本隊を通せるものをもと心掛けたつもりであったが、自分で思うほどうまく張れなかったのが悔しかった。また上級生であるのに弱音をほいたことが、後から思うと情けない事であった。(瀬川)

今回の合宿では好天に恵まれたため、2年生としての体力、精神力、ルートファインディングなどの力が試されることの無いまま終ったような気がします。それでもFAX工作、行動中の1年生のフォロー、Esssenの指導など、十分に行えず、問題を残す結果となりました。また3年生の数が多いためか、3年生に委ねてしまう面が多々あり、積極性に欠けていたと思います。準備段階では、計画が十分でなくもうし訳ありませんでした。また乾燥野菜や、1年生の指導など、松本部員、とりわけ内田にまかせ過ぎりになり、しまい、松本部員のがんばりにほ頭が下がります。

1年生はがんばりをこめていて、トレーニングしたんだぞと思わせれば試合場面でも努力している姿が、あまり見られなかったのは残念です。よく天気図など、練習すれば必ずうまくなるので、心してや、て下さい。  
記、下平。

今回の合宿は好天に恵まれてラッキーでしたが、私個人としては2年生として、もう少し1年生のことをよく見てやることかできたのではないかと感じました。これからもう少し全体というものを考えて行動できるようにしたいと思います。  
内田 健一

行動中に関しては、歩き方が雑であった。ソカンのかきを何度も切ったり、アイゼンをはきしかなかったり。あとアイゼンを引にかけてこころなげ、着んでも着ない所まで下から動かすもの、シビアな所では命とりになりかねない。直接自分の命にかかわることなのにもっと真剣になる必要がある。一度こころを注意され、すぐに同じことをやり、またこころをいぶかしたり、現場に着いてワカンとアイゼンをセッケルにくる仕方を何度も上級生に注意されたこと、感じるのは、もっと上級生の話を真剣に聞かなければいけないということである。教えてもらう立場にいるから、細かい事でも聞き流しにしてしまうようなことがあってはならない。今回の合宿は天候に恵まれたおかげで無事終了することができたが、一度荒天にみまわれたら考えると、シカ冬山に入ると経験とつむべきだと思っている。

(浦山)

体力技術が、まだ身につけられていないということが反省すべき第1番だと思ふ。夏から春と同じ反省が、つづいていて、とてとよむべきではない。天気が良く、糸色好の日和山のときでも、異常に汗に汗が、あつたのは、体力異常であったのでもおぼろげだ。トレーニング不足をいふ感じが、  
牧野

ぼくとしては檜の小屋で食器を4枚破けてしまった  
ことが最大の失敗でした。先輩が物を破らせぬのが注意  
にまかかろうが自分~~自分~~分では注意していたつもりだ。たのみに手入  
リングが倒れて食器が破けさせてしまった。予備があった  
ので何とか款だけは足りたけれども足りなかつたらみなさん  
は大変迷惑をかけたただろうととても反省しています。  
ダン箱にしろカスボにしろ物をもと大切に扱わなけ  
ればと思いました。エッセンについては朝自覚ましか  
鳴、それからプシを始めるまでに時間がかかすぎた  
と思った。一年生一人の自覚が足りなかつたのでけつ  
かと思う。それと水を作るのが下手だったと思う。後半  
はたいじんコツがわがてきて沸騰時間ハラツキ  
かたいじん減ったと思った。それと今回初めてマカ棒  
なるものを作りましたか作り方は簡単なのでいいと思  
いましたか食べるとなると食器一杯が限度だと思  
っていました。あと一年生は連れて行ってもらうとい  
う意識が多すぎたと思います。もと自分では  
へ来ているんだという自覚を持って自分のできる事  
らと人と人進んで行動することが大切だと思  
いました。

(松下)

今回の合宿は僕にとり出発前から気分が弱気になっ  
ていたので。そのために合宿中自分から進んで活発に動い  
たという気持ちが出ることなく。合宿をふり返してみると他人に  
頼りすぎとおまり自分のためになすなかつたように思う。  
今回は天気かた11人よくて多少のハアニングはおたか  
たモテ事故もなかつたように思うがより天気に恵まれて  
ついで気分がゆるみ一つ一つの行動を考えると。さつでおたか  
に思う。入山前はかなり気持ちの高ぶりのおかげで緊張  
していらたか結構おまじり終ってしまったような気がするが  
これは天気がよく雪も少なかつたからで最終日のような  
天気が続くような山行がこれからあると自分が  
どうなるか分からなかつたのが不安である

小久保 陽介



合宿の前日、体調をくずし全々使いものにたろなかつた  
ので、大変悔しかった。後半も体力の弱さが目に見  
えて残念でした。Fixや危険地帯通過時に何度も  
バランスをくずしたりしたのが、恐しかったです。アセ  
ンワークを始めとする雪上技術への未熟さや精神的弱  
さ等を今後の課題として真剣に取り込んでゆきたい  
と思います。最後にこまめに鉛を忘れるという不肖1時を  
加したことを重々反省いたします。

木元

天気に恵まれたということで、合宿も成功したし、大変うれ  
しかったです。

反省は、まず、歩行がいきなりいまいかげんだこと、例え  
ば、クワシをひかけてころんでみたりましたんですが、一歩  
まちがえば、大事故になっていたんじゃないかと思える  
ので、今度から気をつけたいです。それから、履メシ  
とレーションを一度取り忘れたことがあったので、そ  
ういう不注意をなくすようにしたいです。

とにかく、天気に助けられた面が為々あるので、合宿成  
功で有頂天にならず、悪天の冬山でもやっていたら、  
実力をつけたいです。

(木元)

11/17

# 冬山は偉大だ！

作 浦山

俺は、あるねえちゃんに恋をした。〇〇ちゃんと呼ぼう。11月中頃学生  
忘会があり、PM:10:00に終わった。帰りかな、と思いエンジンを回そうと  
した時〇〇ちゃんと会った。「バイクにのってきたんだ、今からどこか行こう」と〇〇  
ちゃんはおしやる。寒い日であった。「別にいいけどマットがないじゃん」「マットな  
かいらないよ」仕方がないから自分のマットを〇〇ちゃんに貸して、俺は部屋に  
行って岩用マットを取ってきた。まおはアルファス公園へ。夜景を見ながら1時間  
の世間話をしてた。とりとめのない話をしてたのだが、なぜか俺はドキキ  
てた。PM:11:00。「それ3かえろうか」「次はビーナスへ行こうよ」さらに俺はドキ  
キした。くそ寒い中、美し原へ向かった。寒いはずなのに、なぜか俺は寒いとは  
感じなかった。結局そのあと〇〇ちゃん俺の部屋に来て、また世間話をして  
た。4:00ころ怖れていた。ドキドキしっぱなしだった。それから寝ては夢。起き  
は空っつで〇〇ちゃんのこと頭が浮かんだ。そして7:00に突入し、俺は  
落ちてしまった。おとが滑落ちた。なにやら冬山に対して不吉なものを感ぜ  
た。おれなかつた。下山してすぐに〇〇ちゃん家に電話して、いてまたても  
おれなかつたのだ。しかし俺には眉毛がない。うんと感じながらも〇〇  
ちゃんと会った。〇〇ちゃんは俺のなくった眉毛を見て「私、眉墨もてから描い  
てあげるよ」と〇〇ちゃんはおしやる。俺はテンションの高ぶりをみせられず  
「好きだ」と言ってしまった。すると〇〇ちゃんは、「私好きならいるから夕よ  
とあざり断つておしまいな」って、ショックでグレートであった。その日から冬山ま  
じ俺は廃人のような生活をおくた。このまじは冬山でつぼる」と思いつつも  
失恋傷心冬山ツアーへと参加した。神様も俺をおおれんでくれたのか、毎日  
よいお天気であった。しかし冬山に行ってみると、双六の小屋で〇〇ちゃん  
への未練はスパーンと音をたてて消えさせた。俗世間の世迷事をきれい  
さっぱり洗い流してくれた冬山は偉大だと思わせるを得た。今、俺は  
信じている「あれは冬山前の気の迷いであった」と。

# 作文

雪面に反射した紫外線は視神経も通過し、脳下垂体に於てカリウムと融合する。ワカニからフアラベツ、  
 鞆下を通して伝わる雪の感触。はたまたアイゼンの  
 下で大小様々な石がくだける ところ良い  
 感触-----。

私は60cm前方にピッケルを突きさす。  
 その瞬間、私の内なるパラダイムは崩れた。  
 (牧野賢一)

## 冬合宿の思い出

冬合宿は、ぼくの前に恐怖と存てのしかがこいた。ところが  
 いざ合宿に入るとみよと、夏山より懐かしい日もあつた。気が  
 ぬけてしまった感じもした。冬山で不安であつた。山をたすといふ  
 行動も寝がよかたおかげで、夜をたにやる時は、降つて  
 くまの星の下で、寒風に身をまかせた。まよつた時は  
 けさしい満足感と味わることができた。ただ小屋の  
 エッセンの寒さにはまよつてしまった。エッセンはあたたかいもの  
 だといつていたのに、一回しかテントのエッセンが回つてこ  
 ないもやたいコンクリートの上でスポンジが床にくっつき  
 しまつた中をやるなくては存なかつた。あれほどテントを恐  
 しいと思つたことはないのではなかりかし。冬山で、これほどせつた  
 が、言ふとは私は存んと幸せなのだろう。幸せを感じた冬山は  
 最高だった。

小久保

## 編集後記

### 「私と冬の槍ヶ岳」

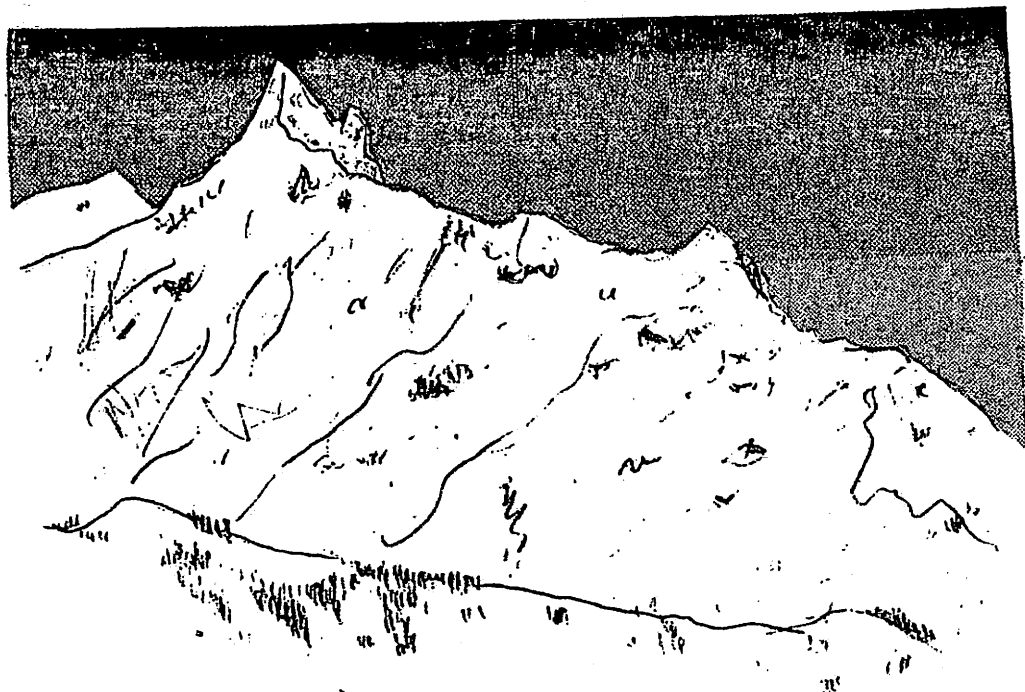
雲一つない空の下、私は槍ヶ岳の山頂に立った。安曇野から冬の凍った空にそそり立つ槍の穂を見て、高校生だった私はどんなに恋焦がれた事だろうか。その頃の私には手のとどかない存在であった。その頂にようやくのこゝで立てた。しかし、何の感動も湧かなかった。私の恋焦がれていた槍ヶ岳は、何日も吹雪いたあと、雪と氷に身を固めて私を迎えてくれる苦手のだったが……。

私は素直に喜ばない。この山頂に再び訪れる事はあるのだろうか。多分、あるだろう。その時は、幾つかの岩峰を乗り越え、真っ白なこのピークに挑む筈だ。その時、きっと私の心の襖には、別のお目当ての高峰に狂っているに違いない。それは、ネパールの彼女が、それともカラコルムの彼女が。

私はこんな気持ちでモンモンとして、大学なんて行きたくない。別に世の中は自分の好きなように生きにくいのだろうか。私には安定したサウリーは必要ない。女も必要ない。ただ欲しいのは、ちょっとした刺激が欲いただけなのさっ。  
(中村貴士)

※注意※

原稿は、とじしろを考えて書くこと。雪のあるルートは、仕上がりが悪くなるから、無地のものを使いませう。



槍岳北鎌尾根

1988.年度

信州大学山岳会(SAC)

冬山合宿報告書(12/20~12/30)

1988.2.6発行. 伊那部会

上伊那郡南箕輪町 8304